

# 松戸市社会教育委員会議会議録

令和 7 年 度 第 3 回

## 令和7年度第3回 松戸市社会教育委員会議

○令和8年3月27日（金曜日）

○出席委員

長江委員長 奈賀副委員長 大野委員 大成委員 阿部委員  
伊藤委員 桜井委員 小林委員

○欠席委員

坂委員 安達委員

○市側出席者

波田教育長 村上生涯学習部長 三根審議監兼教育総務課長  
秋田参事監兼教育政策研究課長 小川学習指導課長  
川嶋図書館長 関根社会教育課長 渡辺文化財保存活用課長  
東海林文化スポーツ政策課長補佐 高橋にぎわい創造課長補佐  
清水社会教育課施設担当室長 越光社会教育課青少年会館長  
染野博物館次長 金井戸定歴史館長 図書館（柿沼 福田）  
社会教育課（三田村 古瀬 坂巻 下平 増田 丸木）

○次第

### 1 報告

- (1) 「第2次松戸市子どもの読書活動推進計画」の策定について
- (2) 「第二次松戸市社会教育計画」事業見直し後の策定について

### 2 議事

- (1) 社会教育関係団体に対する補助金について

### 3 その他

---

◎開会 会議の公開、傍聴について

**長江委員長** それでは、委員長の長江のほうが進行をさせていただきたいと思います。

本日の会議は、松戸市情報公開条例に基づき公開の対象となっております。本会議を公開してよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

**長江委員長** ありがとうございます。

それでは、傍聴人の状況につきまして、事務局よりご報告よろしくお願ひいたします。

**事務局** 本日の社会教育委員会会議に傍聴を希望する方はおりません。

**長江委員長** 分かりました。

---

◎議事録署名委員の選任

**長江委員長** それでは、進めさせていただきたいと思います。

では、議題に入る前に、今回の議事録署名につきましては、大成委員と小林委員にお願いしたいと思いますが、すみません、引き受けていただけますでしょうか。

皆さん、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

**長江委員長** ありがとうございます。

---

◎第2次松戸市子どもの読書活動推進計画の策定について

◎第二次松戸市社会教育計画事業見直し後の策定について

**長江委員長** それでは、次第に沿って進行させていただきたいと思います。

本日は報告が2件と議事が1件ございます。

それでは、まず報告から。報告1の第2次松戸市子どもの読書活動推進計画の策定につきまして、図書館長より説明をよろしくお願ひいたします。

**図書館長** 図書館長の川嶋でございます。

**長江委員長** よろしくお願ひします。

**図書館長** 着座にて失礼いたします。

第2次松戸市子どもの読書活動推進計画の策定についてご報告いたします。

まず、本計画の策定に当たりましては、昨年7月の社会教育委員会議において、計画策定の進捗状況と今後の予定スケジュールについてご報告申し上げ、ご意見を賜りました。

また、12月にはパブリックコメント実施のお知らせ、それに合わせまして計画案と未就学児、児童、生徒、関連施設等を対象に実施したアンケートの集計結果を委員の皆様にお送りして、ご確認をいただいたところでございます。

その後、本年1月6日から2月5日まで実施したパブリックコメントでいただいた市民の皆様からのご意見を踏まえ、整理を行いました。パブリックコメントの結果報告につきましては、資料1-1、意見内容と意見に対する市の考え方をご覧ください。

パブリックコメントの意見提出者数は、8名の個人及び1つの団体から総数で56件のご意見をお寄せいただきました。いただいたご意見は、計画全体の考え方に関するもののほか、読書の定義や学校と図書館の連携、電子図書館の活用など個別施策に対する具体的な提案やご要望など多岐にわたる内容がございました。

表の整理といたしましては、提出されたご意見とそれに対する市の考え方をお示しし、修正の有無にて、有、無の区分にて整理しております。修正ありとしたご意見につきましては、計画本文の文言修正や具体的取組の追加を行いました。計画の骨格に関わる大きな変更はなく、取組や評価指標や目的、趣旨がより適切に伝えられるよう補足したものが主となっております。

また、修正なしとしたご意見につきましても、計画の考え方に含まれているもの、あるいは今後の施策展開や個別事業の中で検討すべき視点として受け止めております。

そして、資料1-2、第2次松戸市子どもの読書活動推進計画につきましては、これらの修正を反映した計画案と合わせて、3月11日に開催されました教育委員会会議にて決定されたものでございます。なお、本計画の概要を資料1-3としてお配りさせていただいております。

簡単ではございますが、ご報告は以上となります。

**長江委員長** ありがとうございます。

それでは、続きまして、報告事項2のほうまで報告をいただき、皆様方には、その後ご意見をいただきたいと思いますが、よろしいですか。

それでは、報告2の第二次松戸市社会教育計画事業見直し後の策定につきまして、社会教

育課長にご説明をお願いいたします。

**社会教育課長** 社会教育課長の関根でございます。着座にて失礼いたします。

**長江委員長** よろしく申し上げます。

**社会教育課長** 第二次松戸市社会教育計画事業見直し後の策定についてご報告させていただきます。

お手元に配付の資料2-1、第二次松戸市社会教育計画事業の見直し（案）への意見内容と意見に対する市の考え方をご覧ください。

まず、このたびの計画事業の中間見直しに伴う策定につきましては、今年の11月に書面会議で行わせていただきました第2回の社会教育委員会にてご報告をさせていただいた上に、市民の皆様からも広くご意見をいただくために、パブリックコメントを令和8年1月5日から2月4日まで実施いたしまして、その間に8名の方から31件のご意見をお寄せいただきました。

こちらのA4横に記載してございますが、お寄せいただきましたご意見は、社会教育に係る施策の進め方をはじめ、文化財保護や図書館に関することなど様々なものがございました。

表の整理といたしましては、提出されたご意見とそれに対する市の考え方を示し、修正の有無にて、有、無の区分で整理しております。ご意見を基に修正を行ったものは4件ございました。

具体的には、計画に掲げた取組の事業内容の文言修正など、記載内容がより明確に伝わるよう補足したものが主であり、計画の骨格や方向性に影響するような大きな修正はございませんでした。また、修正なしとしたご意見につきましても、計画の考え方に含まれているもの、あるいは今後の施策展開や個別事業の中で検討すべき視点として受け止めており、取組を進める上での参考とする考え方を示しております。

そのほか、パブリックコメントのご意見ではありませんが、令和8年4月1日付の組織改編に伴い、取組の所管が生涯学習部から文化スポーツ部に移管されるものなどにつきまして、修正を加えております。

具体的には、社会教育課を文化芸術創造課に、社会教育課施設担当室を文化芸術創造課文化施設担当室に、教育政策研究課を教育政策推進課に改めております。

そのほかの資料といたしまして、資料2-2は、第二次松戸市社会教育計画令和7年度計画事業見直し版の本編、それから資料2-3は、この計画の概要版でございますが、ただいま申し上げました修正を反映したものとなっておりますので、お時間のあるときにお読みい

ただければと存じます。

なお、このたびの計画見直し後のパブリックコメント実施を踏まえた策定につきましては、3月11日に開催されました教育委員会会議において付議をし、ご了承いただいておりますことをご報告させていただきます。

今後の予定につきましては、本日の社会教育委員会議でのご報告を経て、4月1日に市公式ウェブサイト等への公表を予定しております。

報告は以上となります。

**長江委員長** ありがとうございます。

それでは、報告事項につきまして、以上となるわけですけれども、まず最初に、第2次松戸市子どもの読書活動推進計画の策定についてのほうでご質問とかご意見とかある方、ちょっと挙手をしていただいて、発言いただければと思います。いかがでしょうか。いいでしょうか。何かございますでしょうか。

お願いします。

**阿部委員** 読書活動推進計画のパブリックコメントのほうで書かれていたものに関連してなんですけれども、15ページの24番のご質問でいただいていた点に関してというところです。

ご意見に書いてあるものに関しては、既に民間も含めて市も絡んでやっているイベント等の事業について書かれているかと思うんですが、古本市であったりとか、財団さんが行うブックフェス、本をテーマにしたイベントをやられている中でというコメントが書かれているんですけれども、この趣旨としては、後段に地域リサイクルという古本の話も入ってはいるんですけれども、主訴としては本と出会える接点、イベントというところに取り組みれるとかがかというようなご意見かと思っています。

それに対して、ご回答がちょっと古本ということに対してのコメントが多いのかなと思っていて、別に全然市としてこうやって入れてやってくださいという話だけではないと思うんですけれども、主訴としては、やはり交流であったり、本をテーマにした機会、イベントを増やしてはかがかということなので、それに関して修正してくださいというよりは、何か担当課のほうでそういったもの、図書館事業など考えているのかということだったりとか、既に民間で行われているものとの連携みたいなところ、そのお考えをお聞かせいただければと思います。

**長江委員長** 阿部委員のほうから質問がありました。その点はいかがでございましょうか。

**図書館長** 図書館長から回答させていただきます。

**長江委員長** よろしく申し上げます。

**図書館長** 今現在、開催しております講座等の行事につきましてご紹介させていただきたいと思っております。

まず、行事名としましては、子ども読書の日関連事業といったものを4月から5月に関して開催しております。また、子ども・本まつり、POPコンクール、それから児童文学講座といったイベントを開催させていただいて、大変好評いただいております。そのほか、小さい子どものおはなし会や絵本はじめのい〜っぱ、みんなのおはなし会、おはなしひろば、定期おはなし会等、そういったイベントも図書館を中心として開催させていただいております。

**阿部委員** ありがとうございます。

恐らく市で主催のものでもたくさんやっていたらと思うんですけど、一方でブックフェスなんかは去年、昨年度初めて行われたものかと思っております。私たちも、うちの法人のほうでご協力させていただいたという経緯はあるんですけども、市だけじゃなくて民間が取り組むものも、そういった新しいものが増えてきているかと思っておりますので、そこと図書館が連携するみたいなことも含めて、何も皆さんだけがコストをかけなくても、何か相乗りする形じゃないですけども、そういう形で広げていくというのも一つの協働のパターンかなと思っておりますので、再度検討いただければなと思っております。

**長江委員長** ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。

**大野委員** よろしいですか。ちょっと感想めいた感じになってしまうんですけども、やはり私、松戸市小中学校校長会を代表して参加させていただいておりますので、学校の立場からちょっと意見をということで言わせていただきますと、先日、3月20日の読売新聞に慶應大学の今井むつみ教授、大変国語とか読書活動で権威のある方が、たまたま新聞に書かれていまして、読書活動は読解力であったり、それから推論力、あと語彙力も増えるということで大変有効なんだという話をされていて、本当にそのとおりだなと思っております。

学校教育として、昔、十数年前、朝の読書がスタートしたときは、朝、読書をすると、子どもたちが落ち着いてそのまま1日すごくいい活動ができるという意味でスタートしましたけれども、今は学校のほうとしても、むしろ学力向上に大変寄与するんだということで進んでいるところです。

第2次ということで、第1次のときに学校全体で蔵書の点検を行いましたし、それに従っ

て蔵書も増えていきますし、それから市のほうの取組として学校図書館専門員、もしくは支援員の方を配置していただいたというのはとても大きくて、それで読書活動が大変前進しているなという印象があります。

そんな中、今、読書を子どもたち、小学校、中学校ともに大変重視しているところですが、一つ懸念事項がここ数年出てきたのは、子どもたちの1日の時間の中でスマホを触る時間がとても長い。SNS、そういうのが非常に今、新聞、メディア等でも報道されていますけれども、気になる点なのかなと。学校としては、T i k T o kやユーチューブに負けるな、読書が負けるな、そんな感じなので、この第2次の計画を見させていただきましたけれども、大変具体的な内容が書かれております。これを基に、またさらに前進するものではないかなということで、学校としても取り組んでいかなければいけませんし、大変期待しているものが大きいです。感想になりますけれども。

**長江委員長** ほかに皆様方のほうで何かございますか。

お願いします。桜井委員。

**桜井委員** 桜井です。

計画策定のプロセスと中身に関しては、非常に丁寧に検討いただいて、策定いただいていると理解しております、非常にいい対応だなというふうに思うわけなんですけれども、1点感想を述べさせていただきますと、パブリックコメントの冒頭3つぐらい、3つ、4つですか、やはり漫画の位置づけに関して幾つも指摘がなされているというところは、ちょっと重くというか、大きく受け止めておく必要があるかなというふうに思っております、今の長野委員のご指摘とも関わるんですけれども、昔はコミックを否定する時代があったかなと思うんですが、今やショート動画世代にとっては、コミックというものの重要性も非常に高くなっているようにも思われますので、そういうようなコミックが読書の入り口にもなりますし、何か物事の興味を開いていくようなきっかけになる媒体かなということを考えますと、市の考え方として、読書に漫画、雑誌は含まないというもの、統計上との整合性という点であるということは非常に理解はできます。私も教育の専門家として、全国学力・学習状況調査についてはよく見ておりますので、ここと整合性を取るという方向性については十分理解はできていますが、一方で計画の1ページ目にこのようなメッセージ、一種のメッセージともなり得るような場所に書かれるような内容として、もう少し工夫ができたのではないかなという印象もちょっと拭えないなど。やっぱり1ページ目なので、おっとというふうに思われた方が数名おられたのかなということがありますので、ちょっと感想になってしまうんです

けれども、そのようにもう少し何か書き方というか、があったような印象を持ちました。

以上です。

**長江委員長** ありがとうございます。

お願いします。

**図書館長** 書き方等、統計上のものですので、こういう体裁になってしまいましたが、図書館といたしましてもコミック、漫画については、委員ご指摘のとおり非常に読書の活動の興味をそそるといった意味合いで、裾野を広げる重要な一つの要素というふうに理解しております。

それはやはり学習漫画だけではなく、やはり活字を読むといったことであれば、普通の娯楽漫画でも、そういったものはどんどん増やしていくべきだというふうに我々も強く認識しておりますので、今現在、図書館のほうでは手塚治虫作品から「鬼滅の刃」とか「名探偵コナン」とか、そういったメジャーな作品を中心に1,500冊程度の蔵書があるんですけれども、これを来年度以降、少しずつ増やしながら裾野を広げていきたいという活動を考えておりますので、今後またこういったところ、第2次、第3次というふうに進めていく上では、反映できればなというふうな期待を込めて、今後活動を進めていきたいと思っております。

**長江委員長** ありがとうございます。

ほかに皆様方、委員の方々のほうから質問とかご意見ありましたら、よろしく申し上げます。いかがでしょうか。大丈夫でしょうか。

委員長がしゃべっちゃいけないと思うんですけれども、1点、子どもたちの読書離れというものだけではなく、子どもたちのいわゆる学習環境、それから生活の環境の中で、なかなか図書館に行くという時間の部分がすごく厳しいということで、たまたま聖徳では、図書館司書、もしくは図書館情報で、図書館司書の育成を60年前からやっております、様々東葛圏内とか、あと茨城県なんかで司書として現場に出ている卒業生のほうからいろんなアイデアというか、こういう活動をしているというのが寄せられるんですけれども、その中で、松戸市もやっていると思うんですけれども、なかなか図書館に子どもたちが来られない。それからあと市内に本屋さんが減り、それから図書を買ってもらえる経済状況にない子たちが増えているということで、実は取手市で私の教え子が取り組んでいるのは、もちろん図書館に来てもらったイベントもあるんですけども、それ以外の小学校、あるいは幼稚園とか保育所に図書を何というか、希望も含めてセットにして、取りあえず活用してもらおう、読んでもらおうということをしてしながら、それが市内をぐるぐる回っているという形で、Aの本の人気と

か、セットの人気とか、BとかCとかいうのをある程度、図書館司書の出前で行ったりしながら、さっきのブックファーストというか、例えば幼稚園とか保育園もそうですけれども、そこにできるだけ予算をそれぞれの学校とか、あるいは幼稚園、保育園で閲覧が極めて厳しい状況なので、そこを図書館とコラボしてやっていくという方向で、とてもいい教育を現場でしている事例があります。

松戸市の場合は、50万都市で子どもたちの数も飛躍的に多いので、そんなに取手市のような形ではできないかもしれませんが、やっぺらっしやるそういうつまり資源、図書館の資源をいかに活用し、現実には子どもたちに読む機会を学校単位でも、先生の話がありましたようにちゃんと活用しながら、それがぐるぐる回るといような形のものは、松戸市も多分やっぺらっしやると思うんですが、いかがでしょうか。

**図書館長** 学校連携につきましては、私どものほうも既に実施しておりますが、やはり学校図書館専門員・支援員さんとかが、やはり今の体制ですとリクエストをいただきまして、それを各分館のほうに取りに行っていたかという手間がかかっていると。貴重な業務時間の中で、そののところに具体的には自分の車を使って行っていただいたりとかというところで、それを何とか緩和できないかといったところは、従来から私どものほうも課題として認識しております。

つきましては、新年度から、本当だったら全学校で始められればよかったのですが、まず実験的に、これはまた改めてお願いさせていただくことではあるんですけども、幾つかのモデル校を選定させていただきまして、シルバー人材センターの巡回車を使いまして、配達していただくというシステムをどれぐらいそれが効率的に動けるのかというのを実験させていただきたいというふうに考えております。これがうまいこと回っていけば、再来年以降も予算要求等させていただいて、そこら辺の動きがスムーズになるようにできればというふうに思っています。取りあえずやってみないと始まらないというところがありますので、それを来年度の一步とさせていただきたいと考えております。

**長江委員長** ありがとうございます。

ほかに委員の方々、大丈夫でしょうか。

そうしましたら、2番目に報告をいただきました第二次松戸市社会教育計画事業見直し後の策定につきましてという議題を基に、社会教育課長にご説明をいただきました点につきまして、ご質問とご意見とか、あるいは見直し策定のご感想でも結構ですから、委員の方々のほうからございましたら、よろしく願いいたします。いかがでしょうか。

お願いします。阿部委員。よろしくお願いします。

**阿部委員** NPO協議会の阿部です。発言させていただきます。

幾つかパブコメのほうで出てきた社会教育士のことが幾つか出ていたかなと思うんですけども、この会でも以前もちょっとお話しさせていただくことはあったんですけども、やっぱりそれに対してのコメントがちょっと薄めではあるなという感じだったので、単純に今の状況とか今後についてのご意見を伺えたらなと思っています。

現状、松戸市においては、もともとは社会教育士の前の主事たちの時代から、恐らく私の認識だと設置されていないという認識なんですけれども、そういった専門人材というところ、これは国も含めて社会教育士という形で民間も含めた連携ということを意識されて制度改革されているんだと認識しているんですけども、そういった専門人材の設置、配置というところが、人口がやっぱり50万人都市なので、やはり結構私もいろんな地域のお仕事をさせていただく中で、結構全国で社会教育の関連のお仕事もさせていただくんですけども、社会教育主事の専門職の方いないんですかと驚かれることが多々あります。なので、その辺の配置も含めて今後についてどのようなことをお考えなのかということをお聞きしたいということです。

**長江委員長** ありがとうございます。

いかがでしょうか。

**社会教育課長** 社会教育主事の配置ということで、やはり人事のことになりますので、その年度によって配置のあるなしとあるんですけども、現状、社会教育課のことを申し上げますと、常勤職員では現状いない状況でして、会計年度任用職員であったり、再任用職員というところがあるのはいるんですけども、常勤職員がいないというのが課題であります。

今年につきましては、職員の中で研修を受けさせて資格を取っていただきましたので、あとは人事異動による配置とかもあるんですけども、今後は安定的に社会教育主事、そういう推進の柱となる人材が配置できるように、ここは課題として進めていきたいと思っております。

**阿部委員** ありがとうございます。

皆さんの課でどうにかできるものではないというふうには、あくまで何ともし難いところは認識しつつも、やはり多くの自治体が固定として専門職として採用しているというところが多いかなと思いますので、引き続きやっぱりこれだけの市の大きな部分を支える専門人材かなと思いますので、ご検討いただければと思います。

長江委員長 ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。いかがでしょうか。

奈賀副委員長 いいですか。

長江委員長 お願いします。

奈賀副委員長 学校の空き教室を活用した分散型蔵書保管の模索とかいろいろあると思うんですけども、学校の空き教室、それ以外に何か使う予定とか活用する予定とかはあるんでしょうか、図書の蔵書以外に。空き教室で例えば勉強会ができるとか、何かに使うとか、活用方法としてほかには何か考えられているのかなとちょっと。

社会教育課長 学校の余裕教室ですよ。

奈賀副委員長 はい。

社会教育課長 社会教育的なところに特化していると現状、具体的に何か新たな活用法というのは見いだせていないところです。

奈賀副委員長 分かりました。

長江委員長 ほかにございますでしょうか。

大野委員、よろしくをお願いします。

大野委員 前の教育委員会会議にもこの話題が出たと思うんですけども、やはり生涯学習を推進していく上で、社会教育関係団体の活動、大なり小なりとても重要なものだと思うんですね。まず一つは、これから補助金の話が出ると思うんですけども、補助金も受けられる団体、それから受けられない団体とある中で、補助金を受ける団体の数が少ないのではないかというご指摘と、それから固定されてしまっているのではないかというご意見が前にあったと思うんですけども、同様にでも何か進捗があればお聞かせいただきたいことと、それから金銭面だけじゃなくて、人の面の支援、先ほど社会教育主事、社会教育士の話も委員から出ていましたけれども、そういったお金以外の支援みたいなもので進めている何か進捗があれば聞きたいなと思ひまして、その2点をよろしくをお願いします。

社会教育課長 補助金のことですね、社会教育関係の団体に関する。これに関しては、次の議事の2のほうでご説明させていただきたいと存じます。

あと人材の件ですか。今回取組の見直しをする中で、取組、具体的な番号、この計画書でいうところの35ページの取組番号34、部活動の地域展開というところがございます。今回これは当初計画を策定した令和5年度のときには、まだこの部活動の地域展開の検討が始まっていなかったんですけども、その後のこの2年、3年たつ中で、こういった名前を新たに

明記して取組に掲げたんですけれども、この地域展開に限ったことではなく、従来の生涯学習人材バンクというのもなくなくなったわけではありませんので、そういったところを今後どのように地域で活躍していただける人々をデータベース化してそれを地域に還元するかというのをも併せて推進していきたいと考えております。

以上です。

**大野委員** ありがとうございます。

**長江委員長** そういうデータバンクというのは、簡単に何というんだらう、閲覧できるとか、あるいはどういう手順でいけばつながるのかということをお教えいただきたい。

**社会教育課長** 今、現状あるものとしたしましては、まつどまなびいネットというものがございまして、これは文化系の社会教育関係団体、運動系のスポーツ系、それからあとは市民活動をやっている団体、主なこういったものをインターネット上で見られるようなものがあるんですけれども、コーディネート的な人材バンクとなりますと、ちょっとそこはまたいろいろシステムをやると、それなりにコストがかかりますので、そこは単年度でなかなかできない部分があるんですけれども。

**長江委員長** 現在推進中というふうに考えてよろしいのでしょうか、人材に関しては。あるいは着手の検討中。

**社会教育課長** 着手はまだこれからですね。

**大野委員** はい。ありがとうございます。

**社会教育課長** 未着手です。

**長江委員長** はい。ありがとうございます。

ほかに皆様方のほうからございますか。

**阿部委員** そうしたら、すみません。本当に細かいところなんですけれども、私も関係するところなので、計画見直し後の恐らく35ページかと思うんですけれども、33番、学校でのボランティア受入れ学校の割合ということなんですけれども、単純に指標がボランティア受入れ学校の割合というふうに書かれていて、コロンがついて、恐らく何かしら注釈があるのかなと思いつつ、このコロンは何だったのかが、これは誤植なのか。新しいものは直っていますか。すみません、ちょっと最新のものを。入っていますね。これは何を指しているのか。大体これは注釈がその後。

**社会教育課長** そうですね。これ従前の計画書も今も米印がついておりますけれども。

**阿部委員** これは何か注釈があるのかなと思って探したんですけれども、なかったの。

前回もお話しさせていただいたんですけれども、私の視点からすると、大事な視点だなと思っているので、具体的に推進できるように、我々ともぜひ連携させていただきながらボランティアマッチングも含めて、ぜひ進められたらと思っております。

**社会教育課長** ありがとうございます。

**長江委員長** ほかにございますでしょうか。皆様方のほうから、委員のほうから。

**阿部委員** 今の米印はもうちょっといろんな箇所についています。

**社会教育課長** すみません。これ失礼いたしました。

20ページをご覧くださいよろしいでしょうか。

20ページの取組ナンバー1の表の下のところにも米印が2つございまして、指標については、総合計画においてK P Iとして掲げられたということで、これが全ての計画に係ることなので、ずっと米印がついているということなんですけれども……

**阿部委員** そういうことですね。

**社会教育課長** はい。失礼いたしました。

**長江委員長** ありがとうございます。

**阿部委員** 重要だということですね。

**長江委員長** ほかにございますか。ご質問等。

桜井委員。

**桜井委員** だとしたら、米印ではないほうがいいかもしれない。

**長江委員長** ありがとうございます、ご指摘。分かりやすくですね。

ほかにございますか。大丈夫でしょうか。よろしいでしょうか。

大変真摯に受け止めてパブコメも含めて、しっかりと整理された形でご発表いただきましたこと心から感謝したいというふうに思っております。

意見が出そろったようなので、ここで報告2に関する関係の皆様方、退席となります。ご協力ありがとうございます。

それでは、社会教育委員会以外の方々、すみません、お忙しい中、教育長をはじめとして、私どもの社会教育委員会のほうに質問を含めて言っていただきましたことを心から感謝申し上げます。今年度の中で、委員会の委員の皆様と本当のよりよい社会教育の松戸市における発展に今後も努力していきたいというふうに思っております。ありがとうございました。

◎社会教育関係団体に対する補助金について

**長江委員長** それでは、議事のほうに移ってもよろしいでしょうか。

それでは、議事にまた移りたいというふうに思います。

まず、議事の（１）社会教育関係団体に対する補助金につきまして、資料は皆様方のお手元にあるものを見ていただきながら、事務局から説明をよろしくお願いいたします。

**社会教育課長補佐** それでは、社会教育課三田村でございます。よろしくお願いいたします。

6つの社会教育団体に対する補助金についてのご説明をしたいと思います。

まず、社会教育関係団体に補助金を交付するに当たりまして、市の予算となりますので、その決定につきましては市議会の議決を経るところではございますが、社会教育法第13条に地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ社会教育委員の会議に意見を聞いておかなければならないという規定がございます。本日の議事につきまして、同規定に基づきまして、委員の皆様の意見を聴取するものでございます。

社会教育関係団体に交付している補助金につきましては、毎年1月から2月に次年度の事業計画案、いわゆる予算案に対するヒアリングを行っております。

なお、新年度の計画とか予算につきましては、まだ未確定の部分がございますので、来年度の実際の申請時には変更になる部分もあるため、現段階のものとなっておりますのでございます。

本日のこの社会教育委員会におきましては、申請前の事前評価という位置づけで委員の皆様からご意見をいただきまして、団体にフィードバックしまして、令和8年度の本申請のときにつなげてまいりたいと考えております。

それでは、資料3-1に基づきまして、各団体の説明をまずいたします。

まず、松戸市PTA連絡協議会から順番にご説明したいと思います。

松戸市PTA連絡協議会につきましては、市内の小・中学校のPTAの連絡を密にして健全な発展に貢献するほか、家庭、学校及び社会における教育の振興に協力する連合会で、特に今日の地域社会の重要課題である子どもの健全育成なり、安全・安心、家庭教育力の向上などの推進に関しては、学校、家庭、地域、行政をつなぐ絆として重要な役割を担っていただいている団体でございます。

令和8年度予算としましては、収入につきましては、繰越金が136万5,108円、負担金が30万円、市の補助金が54万円、事業参加費が32万円、県費の県研究大会参加費が3万円でございます。全体で255万5,108円です。

支出の部におきましては、運営費等で、そこから運営費については割愛させていただきますが、私どもの補助対象事業として計上されているものは網かけのところでございます。広報活動費が20万円、研修会表彰事業が36万円、文化祭等開催費が20万円、スポーツ大会開催費30万円、合算いたしまして総額で106万円でございます。そのうち市の補助金の充当につきましては54万円、残りの部分については、ほかの自主財源で賄う計画になっております。

昨年からのちょっと変更点につきましては、これまで紙で発行していた広報紙について、今度はホームページを活用しまして、データで発行するという形が変更となっているところでございます。

次に、小さな親切運動松戸支部、次のページになります。

この団体につきましては、多年にわたって全国的に取り組まれておりますこの小さな親切運動の輪を広げて、明るい社会づくりに寄与することを目的とした団体でございます。

予算につきましては、まず先ほどの収入の部において、これについては法人会費が3万6,000円、賛助会費が46万6,000円、市の補助金が8万円、助成金が5万円、前年度繰越金が4万2,956円、収入の合計が67万4,956円となっております。

このうち右側の支出の部におきますと、対象の事業につきましては、作文コンクール事業費としまして17万円、うち8万円が市の補助金の充当でございます。

次に、松戸史談会でございます。

次のページになります。

松戸市の市制施行10周年記念事業として、昭和29年から昭和36年の間に松戸市史の編さんの作業に取り組んだ際、ご協力いただいたメンバーが中心となって立ち上げた団体でございます。今日まで多年にわたって松戸市域の歴史、民俗などの調査研究を行うとともに、その成果を機関紙として発行するほか、研修会などを開催するなど、市民の生涯学習活動の推進にご尽力をいただいている団体でございます。

予算としましては、収入は会費収入12万円、市の補助金が8万円、報奨金が5万円、事業収入が14万円、寄附金収入として2万円、計41万円でございます。

支出の事業費としましては、歴史散歩・勉強会事業が8万2,000円、史談発行事業で35万円、文化祭執行事業として6万円、合計51万2,000円、うちこの8万円は市の補助金の充当となっております。

次に、松戸市音楽協会でございます。

これは松戸市域の音楽、文化を振興してまちに潤いをもたらすことを目的としまして、合

唱、声楽、オーケストラ、吹奏楽、和太鼓など音楽分野ごとに連盟を組織した連合会となっておりまして、毎年様々な分野の音楽祭ですとかコンサートを開催しまして、音楽を通した市民の生涯学習活動の普及と実践にご尽力をいただいている団体でございます。

予算としましては、収入の部、前年度繰越金が25万円、事業収入152万円、参加者負担金が142万5,000円、主催団体負担金264万円、会費収入39万円、雑収入が1,000円、市の補助金が265万円、助成金収入として30万円、合計917万6,000円でございます。

支出につきましては、右側の事業費、網かけのところに補助対象事業費になります。主催事業費636万6,000円、連盟の事業費246万円を合計して882万6,000円で、このうち265万円が市の補助金として充当しております。

なお、今回令和8年度のみ事業としまして、(4)に記載しております音楽のまち音楽祭、これを11月21日に森のホール21の小ホールで実施とみておるところでございます。

次に、次のページでございます。

松戸市少年少女発明クラブでございます。

これは子どもたちに科学的な興味関心を追求できる場を提供しまして、工作活動を通じて完成する喜びですとか、科学的発想に基づく創造性豊かな人間形成の支援を行う団体でございます。

予算としましては、収入の部として、発明協会助成金が26万1,000円、市補助金が50万円、会費が65万円、寄附金・協賛金が260万円、雑収入が1万3,420円の合計401万4,420円、右側支出の網かけ事業費が175万4,926円でございます。

最後に、次のページ、松戸市スカウト連絡協議会となります。

これは野外活動を中心としたプログラムでございまして、人格、市民性、リーダーシップなどを習得させることで青少年の健全育成に取り組む市内のボーイスカウト団、ガールスカウト団の友好を図りまして、その運動の発展に協力するとともに、市内の社会奉仕活動に協力する連合会になっておりまして、自然体験学級の実施ですとか、子どもまつりなど社会奉仕活動にご尽力をいただいている団体でございます。

予算としましては、収入の部として、会費3万5,000円、市補助金76万円、合計81万5,000円、支出の網かけ事業として活動支援事業10万円、各団の助成事業としまして66万円、合計76万円でございます。

なお、全体に係ることですが、この6団体に対する補助金額につきましては、昨年と同額の予算を財政局と交渉しまして確保しているところでございます。

そして、追加でお配りしました資料3-2の資料でございますが、これは先ほど大野委員さんからちょっとご指摘のあった件でございます。これについては、社会教育関係団体への支援につきまして、前回までの会議の意見を踏まえまして、団体に対する支援等の状況ですとか、補助金についての市の考え方をお示しさせていただいているところでございます。

新規の団体が補助金を受けることについて、現状の6団体がこれまでもやはり行政協力団体として長きにわたり事業を継続していただいている関係性ですとか、市の財政状況や少子高齢化など時代の流れを考慮すると、交付対象の団体数を拡充するというのは、とても厳しい状態だと前回もお知らせしたところでございます。

補助金の交付を受けない社会教育団体につきましては、各団体の自主的な活動のために行っている具体的な支援としましては、催物ですとか、各募集の記事を広報まつどに掲載してほしいとか、インターネットを介したまなびいネット、先ほども課長が言いましたが、による団体の活動情報の紹介など、あるいは間接的ではありますが、施設利用料の3割の減額などあると思うんですが、これら補助金によらない支援というのは、今後も継続していこうとももちろん考えているところなんですけど、市の社会教育の振興を図るために、それだけではなくてプラスアルファの何か支援策を検討しなければならないと考えているところでございます。

これを踏まえまして、ここに記載されているとおり、①としまして活動場所の提供、②としまして資金調達の手法を学べる機会の提供、③としまして市民活動団体など新しい担い手の確保などの意見が前回の社会教育会議で出されましたので、この情報を各6団体にヒアリングをしたときにフィードバックをさせていただいたところでございます。

2ページ目に記載してありますとおり、これを踏まえまして各団体から意見が出されました。これが5つのカテゴリーにある程度分かれましたので、①としましては、やはり活動場所、②として広報・周知に関して、③として人的支援、④として、やはり他団体とのつながり、あるいは⑤として、その他としていろいろな意見があったところなんですけれども、こちら辺を踏まえまして、改めて皆様からちょっとご意見をいただければと思っているところでございます。長々とすみません。

説明は以上となります。よろしくお願いたします。

**長江委員長** ありがとうございます。

それでは、議事1について説明いただいたので、各委員からご意見等いただきたいと思っております。

意見のある方は挙手してお願いいたします。いかがでしょうか。

お願いします。

**奈賀副委員長** すみません。PTA連絡協議会の収支なんですけれども、私も以前やっておりましたので大体のことは分かるんですが、繰越金が多いかなというのがまず1点、コロナがあったときに使えなかった分が残っているのかなとは思いますが、補助金を大きく上回って繰り越しているの、この辺説明は何かありましたでしょうか。

**社会教育課長補佐** ヒアリングのときにということですよ。

**奈賀副委員長** はい。

**社会教育課長補佐** 特に繰越金についてのお話は特にございませんでした。

**奈賀副委員長** この辺は市としては別に構わない。

**社会教育課長補佐** そうですね。逆に私どももやはり繰越金が多いなというのは気にしていたところなので、実際のところ来年以降、そこら辺はちょっともう一度ちゃんと使うのか、そこら辺もどういう形になるのか、逆に単年度、何年かだけでも、例えば補助金をちょっとストップするとか、そういう指標にもなるのかなと、ちょっとそこら辺は来年度以降また考えたいなと思っております。

**奈賀副委員長** 加盟校がどんどん減って今の状況なので、恐らく会費収入が減ってきています。それに加えて、やっている事業自体はあまり減らしていないので、実際問題としてお金が必要なのかなとは思いますが、ちょっとこの辺がバランスが悪いかなと感じました。ほかの団体さんはそんなことがないので。

**社会教育課長補佐** そうですね。そこまで繰越金が多いのはあまり……

**奈賀副委員長** できれば、私がやっていた頃は、補助金をいただくよりは少ない繰越金になるように毎年単年度決算でやっていたので、その辺はちょっと。

**社会教育課長補佐** 分かりました。そこら辺ちょっと確認いたします。

**長江委員長** ほかにございますか。

お願いします。

**伊藤委員** 伊藤です。

6団体の補助金と事業費を比べた場合、1番から5番までの団体は事業費に占める補助金が50%以下なんですけれども、松戸市スカウト連絡協議会は、事業費の100%が補助金という形になっているのは、やはりこの団体が収入のほうで身動きが取れないような状態なんですか。

**社会教育課長補佐** そうですね。やはりこの収支予算だけを見ますと、かなり硬直化している団体ではございますので、もうほかに収入のほうがないという形なので、補助金がないと活動できないという形になっております。

**阿部委員** 一応、私がどの立場で話していいか分からないんですけども……

**長江委員長** 阿部委員、よろしくお願いします。

**阿部委員** すみません。阿部です。

この団体だけ多分ほかの団体と異なっていて、若干PTAさんに近いと思うんですけども、個々の団、個別の団への補助的な位置づけで多分このお金が計上されているんですよ。なので、各団に関しては各会員、団員からの参加費があって、収支がまずあるんだと思うんです。なので、収入があるはずなんです、各団に関しては。

ただ、この今のスカウト連盟さんに関して出ている団体の収支だけで言うと、ここの団としては、なので収入がほぼない。各団からの会費はあるんでしょうけれども、ある意味で言えば、個々の団への各団への補助を一括で多分補助を受けている構図だと思うので、多分ほかの団体と状況が違うところはあるのかなとは思いましたので、この今のスカウト連盟さん自体が何でしょう、経営的にというか、収支的に成り立っていないというよりは、特性上の問題なのかなとは思いつつ、思いつつも穴抜けじゃないですけども、何でしょう、ほかの団体も予算あるわけじゃないですか、音楽協会さんにしてもPTAさんにしても。なので、この団としての収入源がないというのは、今ご指摘のとおり継続的には難しいという位置づけになってしまうと思うので、特にそういった先ほどお話があったような資金調達の何というか、もうちょっと頑張ってくださいというのは必要なかなとは個人的には思いました。

**長江委員長** ありがとうございます。

ほかにございますか。

お願いします、大野委員。

**大野委員** 前も聞いたかもしれないんですけども、6団体は割といつもこれで審査しているかなと思うんですけども、その他の団体たくさんあると思うんですけども、それについての補助金ってどんな感じなんですか。

**社会教育課長補佐** そうですね。やはり先ほどもちょっと触れさせていただいたんですが、ほかの団体さんにつきましては、社会教育団体、もちろん文化系だけに限っても300団体以上、松戸市にはございます。松戸市の社会教育関係団体と言われて登録されているものとして300団体以上あるんですが、その中でこの6団体につきましては、様々な事情があって補助

金を交付しているという事情がありますという話は、先ほど全国的に活動しているんですとか、そういう事情があってやっているというところがあります。

新規のものについては、やはりこの財政難の中、新規でやるのはなかなか厳しいというところの中で、どうしたら皆さんにほかのお金じゃない、補助金じゃないもので何か支援ができないかなというところで、皆さんにちょっと知恵を絞っていただいているという今の現状ということになっております。今のところ、どこからか欲しいですとか、そういうものが具体的にあるということではないですがということです。

**長江委員長** じゃ、大野委員、よろしくをお願いします。

**大野委員** また感想になってしまうんですが、7年度の予算と8年度と今比べてみたんですけども、同じ……

**社会教育課長補佐** そうです。補助金は同じ。同額をキープできたという話はしていました。

**大野委員** 前に史談会さんがいらっしゃったときに、やっぱり会員の方が高齢化で、なかなか新しい方が入らなくて、先細りという話をされていまして、会員数を見たんですけども、でもそんなに載っている団体さん、PTAと小さな親切運動さんはちょっと減っているなという気がしますが、だけれども、4つに関しては現状維持で止まったのかなみたいな、そういうイメージは持っていて、よかったなとちょっと思ったところでした。

ぜひ先ほど言われたようにお金だけじゃない支援が必要なので、課長さんのほうからも先ほど社会教育士、それから社会教育主事の提案もありましたので、こういう先細りになりそうなところはご支援いただきたいし、このいずれの団体さんも当市の生涯学習を支える大変すばらしい団体さんだと思いますので、それをお願いしたいなと思います。感想という感じですか。

**社会教育課長補佐** ありがとうございます。

ちなみに先ほど史談会の話があったんですが、団体とヒアリングしたときには、やはり先ほど高齢化だという話も聞いたところなんですが、やはりほかのいろんなイベントに出て、例えば先ほどちょっとブックフェスの話がちょうど図書館の話であったんですが、あのときその場所に史談会さんも実は参加したりしていて、そのときにやはりほかの団体さんと交流することがとても団体の継続といいますか、会員のことに関してもとても有意義だったという意見もいただいておりますので、一応そういう場所の提供も今後大事だなというのは身にしみたところでございました。

**小林委員** 今、話に出た史談会さんなんですけれども、会員さんが三十何名でしたっけ。そこ

だけでやっているんですか。例えば博物館とかといろいろ関わりがあると思うんですけども、そういう何ていうんですかね、博物館の活用と何か連携してやるとか、あるいは松戸市のいろいろ小学校とか中学校の教員の先生方でも、歴史に関心のある方々いろいろいっしょやると思うんですけども。

**社会教育課長補佐** よく史談会さんであるのが、やはり市民の方を巻き込んで、五香とかでこういうところをみんなで回しましょうみたいなイベントとかを広報で募集してやったりしているのはよくしているんですが、やはり市のほかの部署と連携しているかと言われると、なかなかそこまでまだいっていないのかなという気はしますね。

**小林委員** 私ちょっと用があって、史談というのをちょっと調べて使えるかと思ったんですけども、申し訳ないけれども、内輪の作文なんです。何かの文献として使えるかということ、そんな感じじゃないんですよ。だから、そういう形でやっていれば、それは高齢化する一方で、若い人は魅力は感じないと思うし、だから続けるのであれば、やっぱり何らか事業をしていただきたいなど。仲間内だけでやるんだったら、市が補助金を出す意味はないんじゃないかなと正直そう思ってしまうんですけども、過去に松戸市史をつくるのにご尽力いただいたというのは分かるんですけども、それも大分前の……

**社会教育課長補佐** そうですね。先ほどご案内させてもらったように昭和の時代も。

**小林委員** そもそもこれを続けるというのも、ちょっと正直見させていただいて若干思いました。

**生涯学習部長** ちょっと生涯学習部長の村上でございます。

私のほうからも、ちょっと全体の大局的なところでお話をさせていただければと思うんですけども、今年度第1回のときから、この6団体でいいのかということと今もお話に出ていましたけれども、マンパワー的な先細りが見られるところに毎年同じ金額でどうなのかというのが全体の皆様方のご意見、一貫してあったかなというふうに感じているところです。

こういったこの場でご議論いただいているのは、社会教育関係団体ということなんですが、松戸市の行政の全ての中においては、子ども関係のところの団体さんに対する補助金であったりとか、福祉関係の団体さんに対する補助金であったりとか、やはり何十年も松戸市の行政と関わって市内のいろんなものを盛り立ててくださってきている団体さんに対して、やっぱり同じように補助金の枠組みがあったりというのが、やはり市政も長く続いてきますと、できた当時とやっぱり違う、社会的であったり、その団体それぞれの特性であったりということも今、転換期に、市の全体として来ているのかなというふうに感じてはいます。

今、社会教育関係団体について皆さんのご意見を伺っているんですけども、やっぱりこれだけではなく、市全体のこういった補助金とか負担金の団体に対して、お金の面もそうですし、マンパワーのところ、事務局がたった2人で運営しているような団体さんもあるというふうに聞いていますので、そういったところを今後の松戸の発展のために、市としてどういったサポートをしていけるのかというのは、ここだけではなく市全体として考えていかなければいけないのかなというふうに感じているところです。

すみません、ちょっと皆様方のご懸念とか課題意識に対してのストレートなお答えになっているかどうか分からないんですが、そういったところを今感じています。

**長江委員長** ありがとうございます。

阿部委員、よろしくをお願いします。

**阿部委員** 今の部長からのお話、すごく今のお考えが分かったかなと思ってよかったと思います。

戻って、その支援策に関してのところの意見というところもあるかなと思うので、それを絡めてなんですけれども、今この6団体からの全員からの意見という形でこれが出ているかと思いますが、これは恐らく意図としては、この6団体への支援ということに限らず、広く社会教育団体への支援というものにつながるのかなと思っています。先ほどお話があったように、やはりこのご時世、補助金を新しく設置しますとか、増やしますというのは難しいというのは、これはよく分かるところです。

一方で、そういった団体支援というようなところが、やはり偏っているというふうに見られてしまうというのは否めないところかなと思いますので、であるならば、こういったお金を補助金という形ではない支援という枠組みを検討するのは具体の一つかなと思いました。それは既存のこの団体も含めてですね。この補助金をどうするかは、ちょっとエンディングだと思うんですけども、その中でちょっと繰り返しなんですけれども、資料3-2の1と2に関しては制度的な部分、簡単に例えば施設利用料を、例えば、じゃ、減免しますとか無料にしますとかというふうにしてしまうと、収入が減ることになるので、それが簡単な問題ではないと思うんですけども、施設の仕組みとしての検討ですよ。

一方で、資料3-2の3と4というところは、先ほど話があったような人的な支援、やはりコーディネートと呼ぶんでしょうか、団体への専門的な支援というところ、それはこちら内部の人材も含めて、誰がどこでどんなことをやるのかというところを具体的に検討していく必要があるかなとは思いました。要はフォローとか両方重なるかと思うんですけども、仕

組みの検討と人材ですね、支援の。やはり誰がどれを支援するのかということがすごく重要かと思うので、それっていうのは、すごくいいなと思ったんです、率直に。団体の皆さんの実体験。いいなと思ったので、現状どのようかというと、これに対しての市としての考えと、方針というのは検討は進んでいるのでしょうか。

**社会教育課長** これはこれから検討するところでございます。今、これ1月、2月に各団体とのヒアリングを通じて抽出したところですので、具体的な方策についてはこれから検討してまいります。

**阿部委員** ありがとうございます。

**長江委員長** ほかにご意見ございますでしょうか。

**阿部委員** 1点だけ。今ご検討いただいているということなので、ぜひ次年度にかけて、またこの社会教育委員会議があると思いますので、何かしら今日のこれに対しての、これがこうなりましたという形で……

**社会教育課長補佐** そのときまたご案内したいと思います。

**阿部委員** そうですね。はい。かなと思いました。

**長江委員長** ほかにご意見等。

桜井委員。よろしく申し上げます。

**桜井委員** 既に生涯学習部長からお答えしていただいていることを蒸し返してしまう形になって、また非常識な発言に聞こえてしまったら申し訳ないんですけども、経験の浅い立場からちょっと言わせていただきますと、この議事自体が何か非常に形骸化しているような印象がちょっと拭えないなというのが非常識に聞こえてしまったら申し訳ないんですけども、やっぱり同じご答弁を繰り返されている状況に慣れてしまっている感じの印象があるなというふうに、率直な印象として感じてしまうところで、例えば先ほどもPTA連絡協議会に関して、繰越金が多過ぎるのではないかと、ほかにも幾つかいろいろ指摘があったと思うんですけども、それが意見として出ても、結局は同じことが繰り返されるのかなというような印象がございます。

非常に大事な団体さん、6団体だと思いますので、内部としては非常に大事な活動をされているということも理解はできますし、行政サイドとしても非常に難しいかじ取りなのかなということも分かるんですけども、ちょっとそういう感想を持ちましたということ踏まえたときに、それだけ言うとちょっと何だろう、ぶっきらぼうなので、2つほど意見を言わせていただきますと、こういうふうに同じように補助をしていくということは必要かなと思

うんですけれども、何らかの補足意見のようなものをつけることはできないだろうかということはあると思います。

この額を今年も補助しますけれども、例えば繰越金についてはもう少し改善をできる、それも例えば3年以内にこれを何とかできないでしょうかとか、あるいは何年以内にもう少しほかの方法を、印刷以外の方法を考えられないでしょうかとか、広報紙の印刷以外の方法はないでしょうかとか、そういうような補足的な意見をつけることで、少し改善なり修正なりということを促していくようなことができるのではないかとということが1点、感じたことです。

もう1点は、この資料3-2にクラウドファンディングのような自ら資金調達する手法を学べる機会の提供、このあたりがとても大事かなというふうに思っておりまして、クラブファンに限らないんですけれども、何か新しいことをしたくてもやり方が分からないというような、特に高齢の方が多様な団体では、そういうことが往々にしてあると思いますので、そういうSNSの活用とかも含めまして、ある程度こちらから情報を提供できるような機会が、講習のようなことというのは結構大事かなと思っています。こういうこともできますよとか、新しいこういうことをやってみませんかみたいな機会がこちら主導でできると、こういうことも簡単にやれると、新しく若い人を取り込んでいけるのではないだろうかとか、そういうことを考えられるんじゃないかなと思いました。クラウドファンディングに限らず、そういう機会の提供というものを考えていただけるといいんじゃないかというふうに思いました。

以上2点、意見として出させていただきました。

**長江委員長** いかがでしょうか。今の意見。

**社会教育課長補佐** じゃ、三田村です。

**長江委員長** お願いします。

**社会教育課長補佐** とてもありがたい意見ありがとうございます。

来年度、本申請という形でこの6団体から補助金の申請を受けるときに、今回社会教育委員さんからそういう意見があったというところ、いわゆる補助金のこと、先ほどの繰越金だけではないですが、ちょっとそこら辺も含めて、改善計画なり何かをちょっと提案していただいた上で出しますというようなところは、とてもいい意見だなと思ったので、そこら辺はやらせていただきたいと思います。ありがとうございます。

**長江委員長** ほかにございますか。皆さんのほうから。

ちょっと私のほうから。すみません。団体が求める代替支援策、こちらのアイデアってすばらしいと思ったんですね。その中で他団体とのつながり、つまり例えば子どもたちの発明の団体がありますよね。そこに50万円ほど補助金が出ているんですが、せっかく子どもたちが活動していることを例えば小学校とか、あるいは中学校とか、そういうところとコラボで何か紹介できるようなイベント、今、特に理数系のものに関してなかなか興味が続かなかったり、ものづくりとか発明ということに対して言うと、昔と比べるとアナログ的な発明であっても、なかなか取り組まないというようなこともありますので、せっかくその子たちが一生懸命やっていることをできる限り地域の小学校とか幼稚園とか、あるいは子どもたちの何か夏休みの自由研究とか、そういうときにその子たちがちょっとでも何か触れる機会とか、地域の同世代の子どもたちとこんなことやっているというのが分かるようなつながりというのがあったらいいのではないかなというふうに思います。

そうではないと、特殊なところに補助金が行っていて、ほかの部分というのに回らないとすれば、とてももったいないことなので、その情報そのものが地域のためになっているというか、何らかの関係でつながりをつくっていくという、さっき社会教育主事、昔で言えば、社会教育士のような方々ができる限りコラボにアイデア、意見、それから、実際的に人と人をつなげる、地域の教育とつながっていくというような姿勢も補助金の使い方なんだよというところが幾らかでも改善されれば、理解を得やすい。そうじゃないと、特殊な団体だけがいつも何かもらっているみたいな話になっちゃうといけないので、さっき小林委員が言われたように史談会さんも逆に言えば、出前講師で小学校に行くとか、幼稚園に行くとか、そういうような形でやっていただくと、広がりが少しでも出てくる。そうでないと理解がしにくい。つまり内々の活動じゃないかと言われてしまいかねないですね。

それから、あと例えばガールスカウトとかボーイスカウトに関しても、例えて言えば、防災に役立つような子どもたちの活動だったら、それを一部、クラブに入っている子たちだけではなくて、地域の小学校とか幼稚園とかいろんなところとコラボしてうまく伝えていく。例えばロープの結び方一つでも、様々な役に立つ技術を持っていることがすごく重要なんだよという、その協力し合えば、防災のときに役立つ人材が地域に育っていくというふうに思いますので、そこら辺を何かうまくボランティアの先ほどの社会教育なんかでも、ボランティア団体とのコラボを100%にしましょうとか、理解を深めましょうというところに今84%ぐらいまでいっているんだしたら、それを助けるところでうまく役立てていけば、補助金の意味が多少なりともあるのかなという感じがします。

ですので、そこをコーディネーターがうまくつないでいってくれれば、それぞれの団体が活動しているところ、例えば発明団体に関しては、新松戸なんですよ、拠点。私、会館に行ったことがありますけれども、そうすると、その周辺とコラボするとか、流通経済大学の新松戸の校舎に近いんですよ。要するに大学ともコラボできるし、それから地域の小学校とか、いろんなところにもコラボできるし、それから青少年会館の新松戸ともコラボができるということで、すごいもったいないんですよ。そこのところをうまくしていただければ、理解もしやすくなるのではないかというふうに、少なくとも促していただけるような附帯意見を付けていただければ、より良いのかなと。

**社会教育課長** 今、発明クラブですとかありましたけれども、少年少女発明クラブに関しては、昨年度から1年間の活動の集大成として、作品展というものを新松戸未来館でやっているんですけども、土日の2日間に限定されてしまっているという現状があります。また、このクラブの指導員は現役の学校の先生も関わっていただいておりますので、そういったところもちょっと橋渡し役となって学校のほうにも出張授業で、出前授業じゃないですけども、行ってもらえるようなこと、こういう意見があったということは伝えていきたいと思えます。

それからあと、スカウト連絡協議会に関しましても、今回のこの補助金のヒアリングのときだけでなく、別途意見交換する場があったんですけども、やはり各ガールスカウト、ボーイスカウトもなかなかやっぱり新規の会員が集まらないという現状があって、やはりもっと活動してもらいたいという思いはあるんですね。といったところで、先ほど委員長がおっしゃったようなロープの結び方一つでも、やっぱりそういう防災に役立つというところで、学校とかそういったところに出向いていければ、団体からは行きますというようなお声もいただいているので、受入先の問題もあるんでしょうけれども、といったところでコーディネーター役みたいなのも、これからしっかり考えていかなければならないと思いますので、それは本当にご意見として受け止めさせていただきます。ありがとうございます。

**長江委員長** ほかに委員の方々から何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

皆様方の中から出た意見に関しては、フィードバックしていただくようによりしくお願いいたします。

それでは、委員の皆様方からご意見をいただきまして、本当にありがとうございます。

それでは、本日の議題に関しては全て終了いたしましたので、これにて議事進行を事務局にお返ししたいと思います。

---

◎閉 会

**事務局** 以上をもちまして、令和7年度第3回社会教育委員会議を終了いたします。